

## (6) 東海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す  
(  は上方に変更、  は下方に変更)

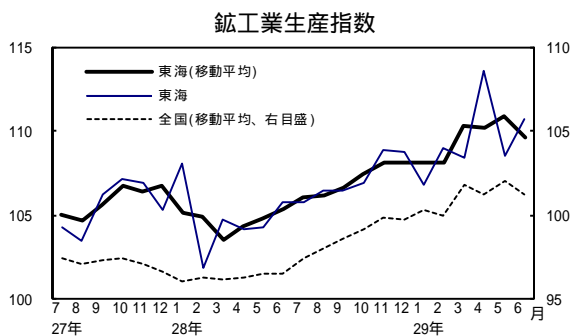
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 5 月)	今回 (平成 29 年 8 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4～6月期には、「輸送機械」は、海外向け乗用車等が好調であることから増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、スマートフォン用集積回路等が増加したことから増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、おおむね横ばいとなった。「汎・生産・業務用機械」は、増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	35.2	1.8	3.9	9.5	11.8	7.0
電子デバ、電気・情報通信	19.7	1.5	2.1	3.6	2.7	3.0
石油・石炭製品、化学、プラ製品	14.9	0.2	0.0	1.5	6.1	2.5
汎・生産・業務用機械	8.9	1.7	6.9	3.1	1.9	0.1
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	2.0	0.8	1.4	1.8	0.6
鉱工業	100.0	0.1	2.7	4.8	4.5	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

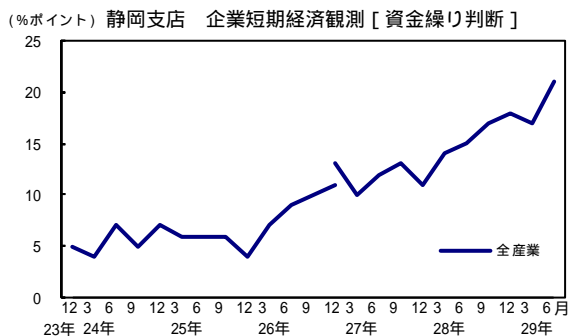
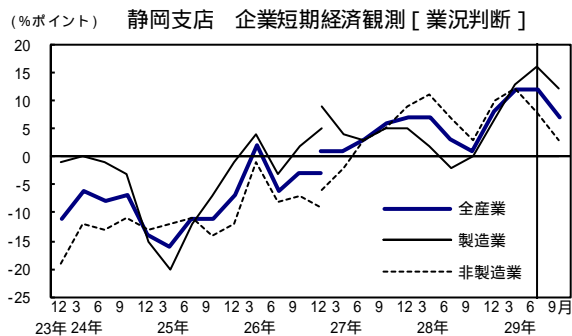
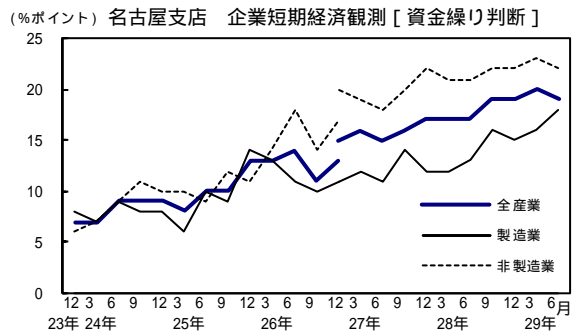
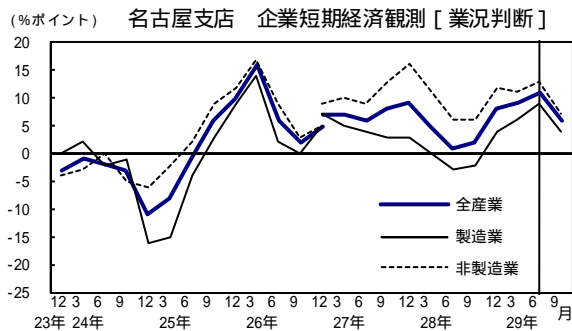
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 東海は内閣府にて算出。

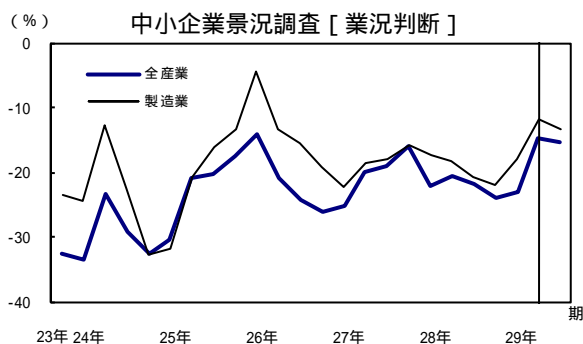
(2) 名古屋支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。  
静岡支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。



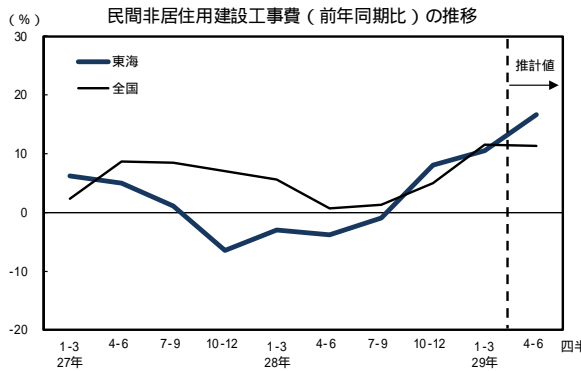
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「例年よりも雨天が少ないため好調に推移し、売上は前年同期を上回っている。駐輪場は比較的 low 額で利用できることもあり、必要な出費を惜しむほど景気は悪くない(不動産業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



(備考) 29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業		
名古屋支店	6.7 (7.5)	9.8
静岡支店	0.5 (2.7)	12.6 (4.0)
製造業		
名古屋支店	2.6 (5.3)	12.9
静岡支店	0.1 (5.7)	23.2 (3.3)
非製造業		
名古屋支店	11.7 (10.2)	6.4
静岡支店	1.2 (1.0)	0.2 (5.0)

(備考) 1. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。  
2. ( )は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.7%増、5月は同1.8%増、6月は同2.9%減となった。

百貨店・スーパー販売額

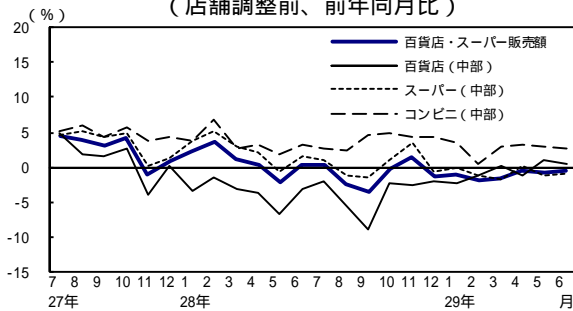
百貨店は、4月は、売り場面積の減少に加え、衣料品の不振が継続していることから、前年を下回った。5月は、改装・催事による効果に加え、飲食料品に動きがみられたことから、前年を上回った。6月は、改装・催事による効果に加え、高額品に動きがみられたことから、前年を上回った。

スーパーは、4～6月期は、飲食料品に動きがみられたものの、衣料品の不振が継続していることから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「土用の丑の日があり、ウナギの販売増加が売上につながったが、週末は外出や外食が増えるためか、特に連休の売上が悪い。猛暑も地味に響いている(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等 (店舗調整前、前年同月比)



	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.2	0.7	1.8	2.9
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.4	0.9	0.6
百貨店(*3)	0.1	1.1	1.1	0.4
スーパー(*3)	0.7	0.1	1.3	1.0
コンビニ(*3)	2.9	3.3	2.9	2.6
乗用車(*4)	12.4	8.7	12.8	15.0
(季節調整値)(*4)	10.2	9.6	2.5	2.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

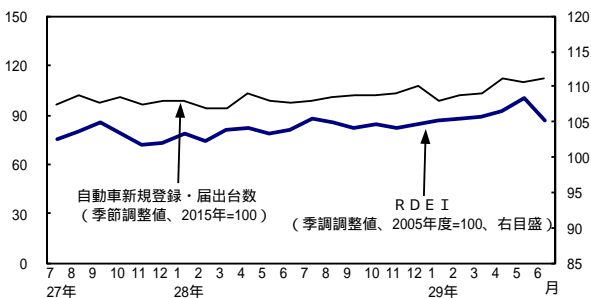
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

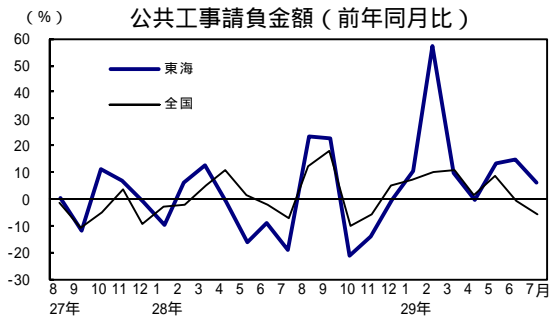
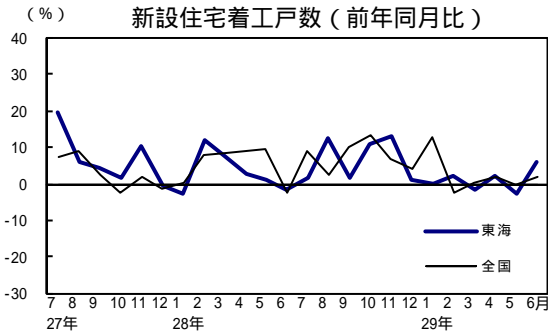
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

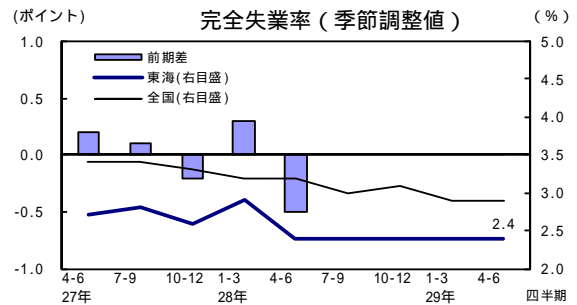
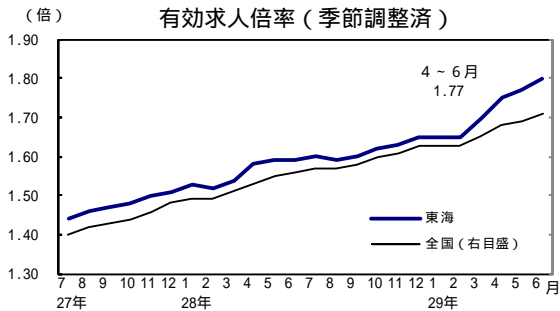


- (2) 住宅建設は増加している。  
貸家が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では増加している。
- (3) 公共投資は29年度累計でみると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。

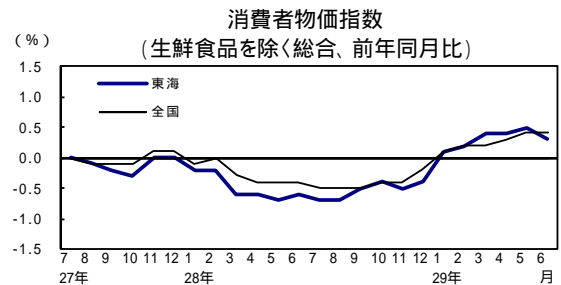


景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連(現状)]  
「引き続き求人倍率の高い状況は変わらない。新卒採用が一段落した後、中小企業では第2新卒の採用が増えてくる可能性がある(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	252	262	238	264	86
(前年比)	0.4	21.9	2.5	2.6	2.3
負債総額	326	431	428	419	157
(前年比)	33.0	35.4	10.9	21.6	4.6



(6) 東海

景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・不動産購入意欲の高さが経済を下支えしている。取引先の話によると、都心部の高層マンションの売行きが順調である。一時期は売れるかどうか懸念された物件が、フロアに関係なく、まんべんなく売れているとのことである（輸送業）

<先行き>

- ・平成25年の遷宮から伊勢志摩サミット、全国菓子大博覧会と続き、地域への来訪者は高止まりしていたが、今後は遷宮の谷間の時期に入り、次第に減少していく。米国では30年続いたクラフトビール業界の拡大も、今年上半期で伸びが止まり、我が国でも数年で同じ状況を迎える（一般小売店〔土産〕）

景気ウォッチャー調査（季節調整値）

